

- 令和3年度学校評価（小学校）-

学校評価（小学校）

教育目標（誠実な人、良き社会人の育成）

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	校訓である「清い心・たゆまぬ努力」を達成するために、教育活動全般において「あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子」の育成を目指す活動を行うことができた。また、PYP認定校・MYP候補校として建学の精神を具体的に10の学習者像として示し、生活・学習両面において日々の生活の中で取り組み、意識を図った。	A	・サレジオの教育目標の周知徹底は、生徒だけでなく保護者に対しても強力に進めるべきである。 ・カトリック学校の教育の特長を子供たちの成長過程の中で伝えることは、何十年経っても心に残り続けるので是非生かしていただきたい。
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として宗教の授業を行い、朝礼や学級の活動を通して、日々の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。宗教行事だけでなく、カトリックミッション校として発達段階を踏まえながら教育活動を行っている。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	プライマリー（1～4年）は、基礎基本の徹底を図っている。探究学習では、PYPユニットプランナーを作成し、教科の枠を超えたテーマのもと主体的に問題を解決できるようにして、10の学習者像に近づけるようにした。読むとくメソッド、英検Jr、ウイークリーテスト等サレジオメソッドも取り入れ、語彙数を増やしたり、リスニング力を高めたり、学習の効果が現れるように工夫した。また、ミドル5・6年生では、MYPユニットプランナーを作成し、学習を行った。英語の時間数と内容を増やし、更に英語の力を伸ばす工夫を行っている。小論文メソッドも取り入れ、論理的思考が身につくようにした。	A	・IBの勉強会に参加しているが、我々保護者よりも子供たちの方がIBのプログラムに慣れていることが良くわかる。サレジオ全体としてIBにどう取り組むかの説明もあったので保護者としては特に心配はない。
4	評価・認定	A	一人ひとりの児童に寄り添いながら、丁寧に指導を行っている。観点別に評価を行ったり、どのように学びが深められているか学習の過程を記述している。ユニットごとに総括的评价課題を設定し、学びの定着を図っている。また、英検Jr.テスト・読書診断指数、英検・漢検などの外部評価や自己評価も取り入れ、客観的に評価している。	A	自己評価に同意
5	教科指導	A	教科で教えるべき知識とスキルを確実に身に着けるための授業改善を進め、実行した。5・6年生では、教科の学習に力を入れた。プライマリーの探究学習では、年間6つのユニット（単元）を設定し、セントラルアイデア（仮説）を検証してきた。その結果、思考・判断・表現力が培われてきた。昨年から一人1台のiPadを導入し、すべての教科で思考力を伸ばすためにICT機器を使った授業を行った。新校舎へ移転後は、前面に86インチの大型電子黒板を設置し、デジタル教科書等ICT機器を有効に使用しながら授業の質を向上させることに努めた。休校期間中もオンライン学習を行い、学びを止めず行うことができた。しかし、コロナ禍で協働学習が思うようにできず、児童の学力を伸ばすために、更なる授業改善をと考えている。	A	・算数と国語のコアは、最初は難しく解くのに時間が掛かっていったところ、今は理解できる問題が増えており先生方のご指導に感謝したい。 ・iPadの配布によりコロナ禍の中でも落ち着いて授業を受けることができた。保護者としても普段あまり見る事の出来ない授業の様子を度々見る事ができたのが良かった。
6	授業研修	A	学年ごとに教員間のミーティングを毎週行い授業設計への理解を深めたり、全教職員で国際バカロレアについてより理解を深め実践につなげたりした。また研究授業を計画・実行し、効果を検証した。年2回の公開授業週間では各校種の授業をお互いに見せ合い、意見を交換することによって授業改善に努めることができた。プライマリーでは新校舎移転に向け、効果的なICT機器の使い方なども積極的に校内で研修を行った。また、PYPの集大成である4年生のエキシビションに向けて、教員が児童の探究をどうサポートしていったらよいか研修を行っている。	A	・コロナ禍で外部での研修機会が減っているのではないかとと思うが、内部での研修を強化するなど対策願いたい。
7	学級経営	A	教員は学級の児童と共にいることを大切にし、子どもの心をもとめ取る取り組みを実践している。年2回の個別面談だけでなく、保護者と連絡を密にとり適切に対応している。学校だよりや学年通信をはじめ、お知らせをWEBで配信し、全家庭にできるだけ早く情報を伝えるようにした。また「コトモン」を通して保護者からの連絡事項も素早く受け取ることができ、迅速に対応している。	A	自己評価に同意
8	生活指導	A	毎月の生活目標を決め、教師が共通理解をもち、朝礼や朝の会等で大切なことを呼びかけている。プライマリーでは学習と生活は一体化されているので、教員は常にアシステンツァを心掛け、日々の学習や生活の中で児童と向き合い取り組んでいる。また、通学マナー等に関しても、集団下校グループを作り指導を行っている。今年はコロナ禍で集団下校の実施は行うことができなかったが、下校時、JR草薙駅に教員が交代で立ち見守っている。JR通学者に関しては、繰り返し乗車マナーの指導を行っている。	A	・コロナ対策としても、健康面から考えても食後の歯磨き指導をより徹底させて方が良いと思う。 ・コロナ感染者が増えている中、児童の健康、安全に大変配慮されており、高く評価する。
9	進路指導	A	児童や保護者との面談をもち、児童の将来を考えた進路指導を行っている。将来の夢をもち、具体的な将来像を持つことにより児童の学習意欲も上がっている。5年と6年時に中学校の説明を聞き、サレジオ中学校への理解も深めている。	A	自己評価に同意

- 令和3年度学校評価（小学校）-

10	安全管理	児童の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	A	コロナ感染予防対策として、入口での検温や手指の消毒、マスクの着用、三密の回避など感染対策に細心の注意を払った。朝の会では、児童の健康観察を重視して行った。安全面では、9月より児童全員に学生証を配布し、登下校時に校舎の入り口で学生証をかざすことで、登校下校時刻を保護者メールで配信し安全を確認している。また、ゲート警備を強化し、登下校時には警備員を配置したり、門の解錠に関して安全管理体制をいっそう整備したりした。学園防災訓練やセコムによる防犯教室もを行い、防災防犯に関して注意を促した。JR草津駅構内まで教員が毎日送り、児童の安全面に配慮している。	A	自己評価に同意
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って任務を遂行している。各部ごとに連携を持ちながら取り組み、各分掌の部長がそれぞれ責任をもって運営をしている。	A	自己評価に同意
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	B	コロナ禍で行事を縮小したり、オーストラリア修学旅行、宿泊学習やサレジオ祭、スキー教室などを中止にしたりせざるを得なかった。しかし、今年だからこそのことを考え、運動会や星の子活動、遠足、クリスマス会など工夫をして実施し、児童の発達段階に合わせて心に残る行事を実施することができた。	B	・各種行事が中止されたり縮小されたりと残念ではあったがこれまでの行事の内容を見直す良い機会でもあった。学校主体でのイベントから子供と一緒に考えるイベントへシフトしても良いと思う。子供の新しい視点と発想でWITHコロナ時代に合った企画が必要。校外へ出掛けていばかりが重要ではないと思う。オンラインを利用して研究・教育機関や企業につながったり、地域の人材と触れ合ったりと工夫次第で充実感はあると思う。
13	管理運営	学校組織の管理運営システムが明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	学年部長を中心に2学年ずつ組織され、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。また学年部長は管理職との連絡を密にとり、それぞれが協力して運営を行っている。また、幼・プライマリー・ミドル・カレッジの各ステージとの連絡も密に取り合い、学園として一本化した運営を行っている。	A	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は児童が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	「整理整頓と創造」をコンセプトにしたプライマリー新校舎が8月末に完成し、9月から最新設備が整った環境の中で、児童は快適に生活を行うことができている。86インチの電子黒板、背面、後面のホワイトボード、整理整頓ができるロッカースペースなどの教室空間、アトリエの大型LEDビジョンに映し出される児童の作品、すぐに本を手にとることができる広々としたライブラリー、皆が集まれるドン・ボスコスタジオなどいろいろな工夫が散りばめられている。また、トイレや水道などは非接触型にすべてし、コロナ禍でも衛生的に生活ができるように整備されている。	A	・新校舎と運動場との距離があり、運動量・時間の減少が懸念される。 ・新校舎の衛生設備は非接触式のものが採用され、コロナ対応になっているのが良かった。
15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	コロナ禍ではあったが、ジョイアクラブ、課外体育、スクールバンド等、週に2～3回の課外活動を行うことができた。放課後の補習学習なども行い、常に児童と共に教員がいるようにしている。また、放課後のドボ・スコアでは、家庭的な雰囲気のもと児童を預かり、共に学習したり、遊んだりしている。	A	自己評価に同意
	全般、総合評価		A	プライマリー棟の完成により、コンセプトのもと教員も児童も新たな一歩を踏み出した。全児童にiPadを配布して2年目となる。ICTの活用が急速に進み、どの教科でも学習道具の一つとして児童がタブレットを使用している。1年生もすぐに使い方に慣れ、9月と2月の2度のオンライン授業の経験をした。今後もICTの効果的な使用については模索していく。教員は物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、取り組んでいる。今後も教職員一同一丸となって取り組んでいきたい。国際バカロレアPYP認定校、MYP候補校として、探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいる。建学の精神のもと、更なる努力を続けていきたい。	A	・コロナ禍の中、学習、生活、進路の総合的な指導を行うため学校運営から施設設備に至るまで社会情勢に即した環境が整えられていたように思う。 ・耳鼻咽喉科医をしておりますが、静岡県でのインクルーシブ教育の進展が遅いことが気になっている。国の施策でもあり公立校にも意見しているが遅々として進まない。静岡サレジオは私学のメリットを生かして他校の見本となるようにインクルーシブ教育に力を入れてみては如何か？

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

コロナ禍の中、学校運営から施設設備に至るまで高評価をいただいたことに感謝いたします。建学の精神のもと、学校生活全般において更なる精進を重ねたいと思います。プライマリー棟が完成し、「整理整頓と創造」をコンセプトに、あるべき所に物も心もあるように、子供達も教師も心掛けていきたいと思っています。学習面だけでなく、生活面においても一人ひとりに目を配り、きめ細やかな指導を心がけていきます。今後も教員は、物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、実践していきます。また、国際バカロレアPYP・MPY認定校(MYP申請中)として、今後も探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいきます。PYP保護者学習会、MYP保護者学習会や保護者会、学校だより等を通して、なお一層保護者に学校の現状や建学の精神などをお伝えする機会を作ってまいります。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の恐れも考慮しながら、コロナ禍であっても実施できる行事の在り方を模索していきたいと思っています。